大田区探歩〈2〉

蒲田（かまた）

今年の 4 月に転勤になる前は、大田区にあまり縁がなく蒲田の駅に降りたのは 2、3 回程度だったと思います。自分の中では大田区といえば、京浜工業地帯の中核であり、田園調布という高級住宅街を有しているという程度でした。また、蒲田駅周辺は、戦後の猥雑な雰囲気を残した歓楽街が残っているイメージも持っていました（実はこの辺が楽しみでした）。

通勤で JR 蒲田駅を利用していると発射ベルで懐かしい「蒲田行進曲」が流れていることに気がつきました。ちなみに、最近はJRも無機質なベルの音に代えて音楽が流れているケースが多くなり、高田馬場などは「鉄腕アトム」のテーマソングが流れています。そうか、ここは「蒲田」なんだ。

「蒲田行進曲」は、旧松竹キネマ蒲田撮影所の社歌であり、同名の映画のテーマソングで有名になりました、映画は、1982 年に公開され、「仁義なき戦い」で有名な深作欣二監督、脚本、つかこうへい、銀ちゃんこと風間杜夫、小夏の松坂慶子、平田満など当時の新進気鋭の俳優が出演し、テンポのよい映画だったと思いだされます。特に、新撰組の階段落ちのシーンは有名となりました。

松竹キネマ蒲田撮影所が蒲田駅の近くにあったことも初めて知り、労基署が入っているビルの目と鼻の先に位置します。同所は大正 9 年 6 月に研究所の跡地に約 9,000 坪の敷地でオープンしました。昭和 11 年に大船撮影所に移転するまで「キネマの都」として映

画文化の中心的存在だったようです。移転の理由として、無声映画がトーキーに変わり町工場の騒音が音声に入ってしまうからとのことですが、工場の町大田区を象徴している話だと思います。

現在は、跡地に区民ホール「アプリコ」、複合ビル「アロマスクェア」が建っており、当時を偲ばせるものは余りありませんが、ホールの地下 **1** 階に当時の撮影所の全景を忠実に再現したジオラマが飾ってあり、松竹から寄贈されたもので、見応えのあるものになっています。また **1** 階には、撮影所の入口に流れていた逆川（さかさがわ）に架かっていた「松竹橋」の「親柱」が面影を残すものとして飾ってあります。さらに、「松竹橋」のレプリカが、アロマスクェアの前庭に植木に埋もれるように設けられています。このレプリカは、昭和 **61** 年に山田洋二監督作品で蒲田時代を描いた映画「キネマの天地」で使われたものだそうです。

更に、隣のボーリング場のビルの階段下に隠れるように撮影所跡地を示す木の柱が立っており、僅かに、ここは跡地であったとの再認識をさせられるものになっています。

日本映画が全盛で庶民の代表的娯楽だった古き良き時代に思いを廻らせ、改めて昔の映画を見ようかなと思う次第です。

筆者：大田労働基準監督署　北村　康雄